



2019年11月

皆さん、初めまして。11月から司書として勤めることになりました、高村と申します。皆さんの知的好奇心に応え、癒しの空間でもある図書館作りをさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

私の「司書の部屋」では“美”を巡って旅をしたいと思います。美しいものを見たり聴いたりすると幸せな気持ちになります。また“美”は永遠のあこがれでもあります。

第1回目の11月は、読書の秋、行楽シーズンでもあります。そこで『日本の最も美しい図書館』（立野井一恵著 エクスナレッジ 2015年）を紹介することにしました。

この本は、国内41の美しい建築の図書館を集めた写真集です。外観だけでなく、館内も載っています。その土地の特徴を映したデザインの図書館や風土に合った建築の図書館など個性的な図書館も紹介されていて、それらはご当地自慢のようでもあります。優れた造形美の“知の宝庫”である国内の図書館を巡りましょう。

まず最も近くでは、六甲の**神戸大学附属図書館社会科学系図書館**が掲載されています。外観は、スクラッチタイルという大正末期から昭和初期に流行したタイルの装飾です。館内は、開放的な吹き抜けの階段と木製の机が並ぶ、シックで落ち着いた大学図書館然とした雰囲気です。

一方、校舎と同じくポーリス建築のスペイン風建築様式の**関西学院大学図書館**は、美しいキャンパス全体との統一感を持たせています。

マンガの聖地**京都国際マンガミュージアム**は、古い小学校の建物をリノベーションしたレトロなたたずまいが魅力的です。圧巻は、館内廊下壁面の総延長200mに達する「マンガの壁」です。マンガ好きにはたまらないことでしょう。

新潟県十日町市の**十日町情報館**は、階段とスロープで書架を回ります。これは、地域の特徴的な「河岸段丘」（川沿いにできる階段状の地形）を基にしてデザインされました。映画「図書館戦争」のロケ地の一つにも選ばれ、映画ファンからも多く訪れるそうです。

石川県金沢市の**金沢海みらい図書館**には目を見張ります。まさかこれが図書館！？丸窓が、真っ白な壁一面に6000もはめ込まれた直方体の箱の様な外観。積雪の多い北陸でも一年を通じて快適に採光できるようにと考えられました。館内には、水玉模様の光が差し込みます。水玉模様の光の中での読書は、どんな感じなのでしょう？アメリカのネットサービスサイト(FlavorPill)で「世界で最も美しい公共図書館ベスト25」に選ばれたこともあります。

他にも、緑の中に着陸した全長200mの宇宙船のような宮城県仙台市の**宮城県図書館**や、海藻から着想した、垂直ではない！？館内の支柱を持つ**仙台市民図書館**など非常に個性的な図書館も掲載されています。

この本を眺めているだけでも楽しめますが、皆さんも是非気候の良いこの時期にお散歩気分で行く近くの図書館へ、旅行先では、その土地の図書館を訪れて実物を見てみてはいかがでしょうか？

今後の旅行先でもその地域の図書館を訪ねてみると、その地の特徴を知ることができ一層印象深い旅になるかもしれませんね。



『日本の最も美しい図書館』

立野井一恵著 エクスナレッジ 2015年